

## 第 41 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	市野ゼミⅢ	<b>チーム名</b>	Revenge
<b>タイトル</b>	結婚しないのは男のせいか。		
<b>テーマ群</b>	a) 理論・情報		
<b>メンバー</b>	芦田 雄太郎、板垣 茜、井上 裕史、岸田 理沙、 木田 慧、木船 裕太、木村 香織、九野 宗城 藏本 菜央、濟川 綾、竹田 美樹、橋本 康平 早川 修平、藤原 志穂、宮永 早由里、矢野 佑樹 山本 沙織		
<b>研究計画内容</b>	<p>「結婚しないのは男のせいか？」</p> <p>結婚する意思をもつ未婚者は、男子が 87%、女子が 90%の割合であるという。それにも関わらず、平均結婚年齢は年々上昇し、非婚化・晩婚化が進んでいる。</p> <p>未婚率も年々上昇しており、30代前半で未婚の男性では 1960 年の 9.9% から 2010 年には 46.5%まで上昇し、30代前半の未婚女性では、9.4%から 33.3%へと上昇した。</p> <p>私たちはこの最大の理由を、男性側の結婚観の変化に存在すると考えた。</p> <p>なぜなら日本では未だに男性側からの結婚のプロポーズが圧倒しているからだ。収入、容姿、学歴、・・・女性が結婚相手に求める条件や理想は厳しく、多いとはいえ、女性はそれら結婚相手の理想以上に自分の理想の結婚年齢のほうに固執している。周囲が結婚ラッシュに進む中、30歳前後の女性は、高年収の男性よりも、今付き合っている男性にプロポーズされるならば結婚を決めてしまうことが多いのではないかと考えた。それでは、近年、男性側が女性にプロポーズに踏み切れないでいるのはなぜなのか。そもそも人は結婚・結婚相手に何を求め、それはかつてと比較して変化しているのか。そこに存在する社会的環境の要因はいかなるものなのか。また、結婚したいと思っている個人にどのようなミスマッチがあるのか。果たして、この問題を解決することは可能なのだろうか。</p> <p>ミクロ経済学を基礎として、結婚に焦点を当て議論を進める中で、結婚が人々にどう有効に作用するのか、その奥にいる個人が何を思っているのかを捉える。</p>		